

平成20年度調査研究報告書一覧

(財) 年金シニアプラン総合研究機構では平成20年度の研究成果を公開しております。

発行時期 平成21年3月

| タイトル | 番号 | 主な内容（目次抜粋） | 研究メンバー | 定価 |
|---------------------------|------|---|------------------------------|---------------------------|
| シニアの社会参加と生きがいに関する事業 | 20-4 | 年金を受給するシニア層の方々に、地域活動やボランティアなど社会参加の現況、社会参加と健康状態や生きがいとの関係、現役時代における仕事との関係とともに、日頃の生活情報ルートについても幅広く確認し、今後の社会参加を促すために必要なことなどに関するアンケート調査を実施し、調査結果の分析、公表を行った。 | 直井道子（東京学芸大学教授）他8名 | 1000円 *PDF版は無料ダウンロード可能 |
| 北米の公的年金運用に関する現地調査報告 | 20-5 | 米国・カナダの5つの公的年金基金への現地訪問調査を行い、年金基金のガバナンス、組織体制、オルタナティブ投資（不動産、インフラ、プライベート・エクイティ、ヘッジファンド、コモディティ）やESGへの取り組み、人材育成などの最新動向を取りまとめたものである。 | 寺田浩貴（年金シニアプラン総合研究機構主任研究員）他2名 | 4000円 *PDF版は無料ダウンロード可能 |
| 年金資産運用プロセスとリスク管理 | 20-6 | 年金資産運用の内容について体系的に解説したもので、年金資産運用プロセスに即して各段階の内容の解説と具体的事例を掲載している。複雑化した商品や資産市場において年金資産運用軸となる投資管理プロセスの基礎を認識して、最適な投資管理プロセスの実現に向けた課題を年金基金関係者が自身で把握することを意図したものである。 | 森 祐司（年金シニアプラン総合研究機構主任研究員）他2名 | 3000円 |
| 公的年金財政・運用モデル開発に関する研究会中間報告 | 20-7 | 公的年金財政・運用モデルは、公的年金特有の負債構造を考慮した年金ALMモデルである。その全体像は、マクロ計量モデル部分と公的年金財政計算モデル部分から構成される。マクロ計量モデルにより、資産クラス別の収益率、物価上昇率及び賃金上昇率の確率分布の将来推計を行い、それらの確率分布に基づいて公的年金にとってのリターン指標、リスク指標の分布の推定を行う。 | 米澤康博（早稲田大学大学院教授）他10名 | 1600円 |
| 公的年金のあり方に関する研究報告書 | 20-8 | 公的年金制度のあり方について、基礎年金の税方式案の特徴を整理し、現行社会保障制度における位置づけや、財源を消費税とすることに伴う諸問題の検討を目的とする。さらに、公的年金と生活保護制度が高齢者の所得保障に対して果たしてきた役割を実証的に明らかにするため、高齢者における公的年金給付の格差および無年金者と被保護者数の推計および、高齢者の貧困状況についての分析を行った。 | 千保喜久夫（年金シニアプラン総合研究機構研究主幹）他1名 | 1600円 *PDF版は無料ダウンロード可能 |

※ 調査研究報告書をお求めの場合は、「調査研究報告書購読申込書」をFAXまたはE-Mail等でご送付ください。

※ 別途、実費分の送料を申し受けます。

● 報告書の購入およびお問合せはこちらへ
 財団法人 年金シニアプラン総合研究機構
 〒108-0074 東京都港区高輪1-3-13
 NBF高輪ビル4F(総務企画部)
 TEL 03-5793-9411 FAX 03-5793-9413
 ■ E-Mailアドレス: soumubu@nensoken.or.jp